

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi



年頭挨拶

公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会
会長 神山 清志

新年あけましておめでとうございます。

会員・賛助会員の皆様におかれましては、健やかに新しい年を迎えられましたこととお喜び申し上げます。

旧年中は会務運営に多大なるご支援、ご指導、ご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

昨年はWORLD BASEBALL CLASSIC2023で侍ジャパンが3大会ぶり3回目の優勝を果たし、ラグビーワールドカップ2023では桜戦士たちが健闘するも惜しくも8強入りを果たせませんでした。日本全国民を沸かせる活躍をみせました。また、将棋界では藤井聡太棋士がプロ入り7年目にして前人未到の八冠を達成するという偉業を成し遂げました。

新型コロナウイルス感染症は5類に引き下げられ、それに伴い国民は従来通りの生活が少しずつ戻り始めた矢先、インフルエンザの流行があり季節外れの検査を実施された施設も多かったと思います。

当会の活動も「withコロナ」という概念に基づき、第51回埼玉県医学検査学会は一昨年に続き現地開催のみとし、また各種研修会に関してもWeb開催から現地開催へと少しずつ以前の状態に戻りつつあります。Web開催に関しましては、現地に赴かず参加できるメリットがあるため開催回数を減らしたかたちで継続していきたいと思っております。

さて、令和6年はタスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会を開催し4年目となり、この講習会も残すこと2年間となりました。未受講者におかれましては、計画的な受講をお願いいたします。また、第52回埼玉県医学検査学会では、木暮 憲幸氏を学会長とする実行委員会が始動しております。また、充実した研修会を行うため以前徴収していた研修会における整理費をスムーズに徴収すべく事前決済システムの導入の準備を進めております。準備が整いしだい各研究班研修会で実施していきますので、ご協力よろしくお願いたします。

最後に、今年は役員改選の年です。執行部一同、今期も会員、賛助会員、地域のために会務にあたってまいりますので、さらなるご指導、ご鞭撻を賜りたく存じます。

新しい年が、皆さまにとって素晴らしい年となることを祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

第51回 埼玉県医学検査学会を終えて

開 催 日 : 令和5年12月3日(日)
会 場 : 大宮ソニックシティ
テ ー マ : Let's connect!
サブテーマ : 臨床検査技師になってよかった
～ 人との出会い・検査との出会い～



第51回 埼玉県医学検査学会
学会長 矢作 強志

2023年12月3日(日)ソニックシティにて第51回埼玉県医学検査学会を開催いたしました。当日は好天に恵まれ、また新型コロナウイルス感染症の分類が二類から五類へ移行となった影響もあり、一般市民の参加を含め1,177名の皆様に参加していただき盛会裏に終えることができました。心よりお礼申し上げます。

今回の学会テーマは『Let's connect!』サブテーマは『臨床検査技師になってよかった～人との出会い・検査との出会い～』とし、近年の学会テーマを鑑み、この職種を選び養成校へ入学し現在に至るまで多くの方との出会い、検査と出会った「connect=繋がる」を意味した企画・運営を昨年10月より実行委員18名、担当理事2名で準備してまいりました。

学会企画講演は3つを企画し、(一財) 辨野腸内フローラ研究所理事長の辨野義己先生より「腸内常在菌研究の過去・現在・未来」について、埼玉県警察本部刑事部科学捜査研究所法医科の谷田部和子先生より『探せ！検査可能性のPiece (PEACE)「科捜研のお仕事～科学検査に検査技術は活かせるか～」』を、また各世代を代表する県内会員を講師に迎え「XYZ世代別 口に出しては言いにくい本音を知って今後に繋げていこう！」を事前アンケート調査の結果も含め講演いただきました。全ての会場が満席・立ち見状態で会場責任者の判断で入場規制を行う場面もありご迷惑をおかけした反面、多くの方々が興味を持てる企画を立案できたこと実行委員一同嬉しく思っています。その中、X世代の講師が体調不良となり困っていたところ、神山会長自ら代打として手を挙げて講演をいただき、無事企画が終了できたこと感謝いたします。

学生向けランチョンセミナーでは青年部企画として「臨床検査技師になる準備はできていますか？Ver.2～現場に繋がる国試の知識～」をテーマに2名の講師より講演を、また神山会長より学会テーマに沿った講演をいただき、人との出会いの大切さ、また自己研磨のための勉強は人生が終わるまで続くとお言葉がありました。研究班セミナーは「初心者必見!!～検査データの見方と解説～」をテーマに、スマートフォンを使用した参加型講演を行い、講師・参加者の繋がりがありませんでした。小ホール前ホワイエでは、一般市民向けも踏まえた展示を行いました。アニメ「働く細胞」をベースに「血液の中で働く細胞を見てみよう！」を委員が作成したスライド放映や実際の血液像画像、各臓器の超音波での正常・異常画像提示。また検査と健康展で一般市民から好評であった研究班作成ポスターも掲示し、一般市民や学生を含め臨床検査技師という職種のアピールに繋がったと思います。

市民ホールでは今回も企業展示を行い、12社からの協力を得られ感謝しております。受付や学会企画等の市民ホールが会場のため、多くの会員が足を運ばれていました。

市民公開講演は2部制とし第I部は第1回・第2回と日本が連覇しそのときのWBC代表メンバー、伝説のサブマリン投法元千葉ロッテマリーンズ、現日本製鉄かずさマジック監督、渡辺俊介氏をお招きし従来の講演形式ではなく各テーマを設け、トーク形式で行いました。会場には千葉ロッテマリーンズのユニフォームを纏った市民の方も見受けられ、一緒に司会を務めた塚原局長との高校時代の野球部先輩・後輩のステージ上でのキャッチボール、渡辺氏より撮影許可を得ていたため撮影

OKアナウンスで、多くの方がステージ前列に近づき撮影を始めた風景に、渡辺氏の投球フォームを含めた知名度の高さを感じました。第Ⅱ部は全国大会・TV出演等でも埼玉県代表校とし名を馳せ、2021年全国高等学校ダンス選手権優勝、今年度もビッグクラス・小編成部門での上位入賞の山村国際高等学校ダンス部の皆様に、元気をいただくキレのあるダンスを8演目披露していただき、明日からも頑張ろうという勇気をいただきました。学生の皆様が考えてくれた「Connecting Hearts」と言うテーマ、今学会の最後にふさわしいテーマと思っております。

最後に、今学会開催にあたり神山会長をはじめ役員、会員、賛助会員の皆様、学会関係者等のご支援・ご協力に対しまして学会実行委員一同深謝しております。また、引き続き、第52回埼玉県医学検査学会へのご協力、よろしくお願いたします。

第51回 埼玉県医学検査学会 実行委員長 小関 紀之

実行委員会として数々の会議を重ねて参りましたが、学会が終わった今となっては、あっという間に感じております。実行委員のチームワークと担当理事にサポートいただき学会を企画し、無事に開催できたことをうれしく思います。ご講演をいただきました先生方、座長を担当していただきました会員の皆様、発表いただきました会員の皆様、学生の皆様、協賛いただきました賛助会員の皆様、当日の実務においては、埼臨技理事の皆様、事務員の皆様、研究班員の皆様、すべての皆様に感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に移行し、今学会は、コロナ以前の通常通りの形式で開催することができました。一般演題、各種学会企画、セミナーなど会場はどれも大盛況となりました。市民公開講演においても多くの市民の方にもご参加をいただきました。

渡辺俊介氏のトークショーでは、野球選手、監督として活躍する中で、人との出会いの大切さ、人を育てる秘訣など、職種を問わずとても参考になるお話を拝聴させていただきました。山村国際高等学校ダンス部の皆さんにはキレッキレのダンスパフォーマンスを御披露いただきました。ダンス部の皆さんはとても礼儀正しく、常に笑顔で、全国レベルの素晴らしいダンスには鳥肌が立つほどの感動をさせていただきました。市民公開講演を通じて臨床検査が人から人へとつながり、認知も広がっていくことを期待しております。

第52回埼玉県医学検査学会へ、さらにその先の未来に「Let's connect!」。



わらび健康まつり開催される

令和5年11月5日(日)蕨市民体育館にて「第23回わらび健康まつり」が開催された。当日は曇り空ではあったが気候もよく、10時開始から14時30分終了まで、市民の来場も途切れることなくイベント全体が盛況であった。埼臨技ブースでは血管年齢測定を実施し、検査説明も行った。ブースに190名の来場があり、市民からは「健康にもっと気をつけようと思った」「病院では聞けないことも聞けてよかった」など、多くの好意的な感想をいただいた。

以下、実務委員として参加した方の感想を掲載する。

蕨市立病院
八木 和真

私は今回、4年ぶりに開催された「わらび健康まつり」に初めて参加し、健康をテーマとした各種ブースがあるなか、埼玉県臨床検査技師会が担う血管年齢の測定を担当した。

当日は地域の方々が朝から列を作り、開催を喜んでいるような姿を見ることができ、4年ぶりにも関わらず「わらび健康まつり」が地域に浸透していることを感じた。

私自身、普段は検体検査を担当しており、患者様と触れ合う機会が少ないため、検査の説明などが不慣れであった。どのようにお声かけをしたらよいのか、技師会の先輩方にアドバイスをいただきながら円滑に遂行することができた。多くの地域の方々と検査と健康を通じて、色々なお話ができる機会となりとても貴重な体験となった。

今後もこのようなイベントなどを通じて、地域の方に健康意識を持っていただくことや、「臨床検査技師」という職を知っていただくことができれば幸いである。

このような機会をくださった埼玉県臨床検査技師会の皆様、この度はありがとうございました。



全国「検査と健康展」開催される

令和5年11月11日(土)浦和駅西口コルソ1階コルソ通りにて、全国「検査と健康展」埼玉会場が開催された。検査待ちの列は途切れる事無く、市民256名の参加があり、大変盛況なイベントとなった。以下、実務委員として参加した方の感想を掲載する。

学校法人明星学園 国際医療専門学校
臨床検査学科 石田 沙妃

11月11日(土)浦和コルソ通りで開催された全国「検査と健康展」埼玉会場の実務委員として、今回初めて参加しました。当日は会場の設営から始まり、10時から参加の市民皆様へ血管年齢・ストレス測定を行い、あいにくの曇り空でしたが、256名の参加がありました。私は普段、患者さんへ直接検査をする仕事ではないため、検査実施・検査説明をうまくできるか心配でしたが、一緒に会場を運営していた現場で働く技師さんたちのコミュニケーション能力を目の当たりにし、とても感銘を受けました。また検査までの待ち時間を利用して参加者が退屈しないよう、研究班員の方々がわかりやすく参加者の興味を引くような病気のことや検査の重要性を笑い交え伝えており、そこにも臨床検査技師の魅力を感じました。



今回のイベントを通し、臨床検査技師は検査をするだけでなく検査説明、検査の意義を理解していないといけない職業だということ、そして検査をすることの重要性を伝えていく大切な職業だということを改めて実感しました。また、参加者のお話を伺うと、主治医がついており定期的に検査を実施しているという反面、病院に行くほどでもない。怖くて行けない。などの声も多数聞こえてきました。こういった無料で気軽に参加できる検査会場を設けることにより、健康への意識向上、病院へ受診するきっかけに繋がったのではないかと感じました。

今回貴重な経験をさせていただきありがとうございました。将来の臨床検査技師を育成する立場として臨床検査技師の「たまご」たちを大切に立派に育成していきます。



パネルの説明会

川口市立医療センター
佐藤 華子

11月11日(土)に行われた全国「検査と健康展」に今回初めて参加し、主に血管年齢測定を担当した。他に、健康相談や各研究班によるパネル展示も行われた。当日は最初から最後まで検査待ちの列が途切れることなく多くの方に参加いただき、大盛況であった。

簡易的な機械を使って血管年齢とストレス度を測定し結果を説明するという流れであったが、初めて使用する機械ということもあり専門的知識がない方にも分かるように説明を行うことが難しいと感じた。しかし、健康意識の高い市民が多く、検査結果やその結果を踏まえたアドバイスも親身に聞いてくれる方が非常に多かった。また、日常生活で気をつけている点などにおいてこちらが勉強になるような話が聞ける場面もあった。事前にお知らせを見て…当日通りがかったついでに…など参加の理由は様々であったが、普段は医療機関にかかりたがらない方でも、気軽に体験できたとの声もあった。普段の業務において患者と関わることが少ない私にとって市民の方々と会話をするいい機会であり、他施設のスタッフによる市民との関わり方も拝見しコミュニケーションの重要性を改めて実感した。

今回、臨床検査技師という仕事を多くの方に知ってもらうことを目的の一つとして参加したが、市民の方々から初めて臨床検査技師というものを知ることができたとの声もあり、お互いにとって有意義なイベントとなった。このような機会をいただき、ありがとうございました。



血管年齢測定



全員集合!! ご参加いただきありがとうございました

第52回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

第52回 埼玉県医学検査学会
学会長 木暮 憲幸

新年明けましておめでとうございます。このたび第52回埼玉県医学検査学会の学会長を務めさせていただきます、一般社団法人 TMG本部の木暮憲幸と申します。皆様も記憶に新しいかと思いますが、第51回埼玉県医学検査学会が矢作学会長の下で盛況に開催されました。第50回・第51回と集合学会が続き、埼玉県医学検査学会本来の姿に戻った印象を受けるとともに、大切なバトンを受け、次につなげる重責も感じております。

さて、実行委員会は昨年10月から集合会議で始動していますが、会議の場だけでなく終了後の席（懇親会）でも活発な意見交換がされ、プロジェクトに向けての人間関係の“築き”、企画や運営へのアイデアへの“気づき”になっています。そのような中、今学会のテーマは「Challenge! ～多様化するニーズへの実践と進化～」に決定しました。今学会の実行委員は、経験豊富な歴戦の猛者（大変頼りになる方々）がいる一方、初めて学会に携わる方が多く、学会メインテーマ「Challenge!」同様、実行委員会の活動テーマもChallenge!としております。また臨床検査技師へのニーズも多様化しており、その実践が求められています。多様化するニーズへの実践（Challenge!）のその先に、我々の働く検査室、また臨床検査技師個々の進化があると感じています。

過去から引継ぎ・継続することは大変重要なことですが、それと同時にチャレンジ精神を忘れずに、実行委員一丸となって企画・運営に全力でChallenge!してまいります。会員の皆様の多くの参加をお待ちしております。よろしくお願い申し上げます。



第52回 埼玉県医学検査学会 実行委員名簿

役 職	氏 名	施 設 名
学会長	木暮 憲幸	TMG本部 臨床検査部
実行委員長	塚原 晃	戸田中央総合病院
事務局長	石井 圭一	TMGあさか医療センター
事務局（学術部兼務）	大塚 幸成	越谷市立病院
会計部長	石井 直美	越谷市立病院
会計部（運営部兼務）	徳大路 洋史	学校法人明星学園 国際医療専門学校
学術部長	小原 明	埼玉県済生会川口総合病院
学 術	佐久間 信之	さいたま赤十字病院
学 術	鈴木 隆	JCHO埼玉メディカルセンター
学 術	峯岸 将臣	新座志木中央総合病院
学 術	佐藤 彩香	自治医科大学附属さいたま医療センター
学 術	吉田 雅基	済生会川口総合病院
運営部長（SNS担当部長）	脇谷 浩之	一般社団法人浦和医師会メディカルセンター
運 営	大内 輝	埼玉県立がんセンター
運 営	杵淵 雅彦	さいたま市立病院
運 営	横山 静織	株式会社TLC
運 営	石鍋 花歩	白岡中央総合病院 検査技術科
運 営	吉田 智洋	川口市立医療センター
学会担当理事	三木 隆治	獨協医科大学埼玉医療センター
学会担当理事	佐瀬 勝也	東松山医師会病院



令和5年度 第2回ワークライフバランス推進委員会 研修会のお知らせ

令和5年度 第2回ワークライフバランス推進研修会は「聞いてみませんか？ 他施設の働き方～時間外勤務、産休・育休、雇用形態etc～」と題し、開催いたします。現在ライフスタイルの多様化とともに、働く方のニーズも多様化しています。そこで各施設のワークライフバランスについての取り組みや考え方を3名の講師から紹介し、会場で共有・共感したいと思い企画しました。ぜひ多くの方のご参加、お待ちしております。

開催日時：令和6年1月28日（日） 10：00～11：30
開催場所：RaiBoC Hall（市民会館おおみや）6階 集会室8
現地開催

講 師 1：猪浦 一人（埼玉県済生会加須病院）

講 師 2：長澤英一郎（さいたま市立病院）

講 師 3：塚原 晃（戸田中央総合病院）

募集人数：50名

募集開始：現在募集中

（詳細は日臨技の会員専用ページでご確認ください）

*研修会終了後、情報交換会を予定しております。

研究班研修会報告

テーマ **冬に注意すべき感染症 ～ウイルスから細菌まで～**

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：2023年10月19日 18時30分～19時30分

会 場：Web開催 教科・点数：専門教科-20点

講 師：霜島 正浩（株式会社スギヤマゲン）

参加人数：会員169名 賛助会員1名

出席した研究班班員：鈴木由美子 吉田翔平 富井貴之

研修内容の概要・感想など

本研修会は「冬に注意すべき感染症 ～ウイルスから細菌まで～」をテーマに、霜島氏を迎えて講演が行われた。

冬の三大感染症の原因は、ノロウイルス、インフルエンザウイルス、RSウイルスといずれもウイルスであるが、それぞれについて特徴、事例、予防策について詳細な解説があった。ノロウイルスは年間感染者の約半数が、11月から2月に集中しており、飲食店における発生が多くなっている。二枚貝からの感染が広く知られているが、ウイルスの付着した手でパンのカット、箱詰め作業を行った結果、そのパンを食べた小学生409人が感染した事例が紹介され、感染力の強さに驚かされた。消毒については、ノロウイルスはアルコールに抵抗性を示すため、次亜塩素酸ナトリウム等を使用し消毒を行うことが重要である。インフルエンザウイルスのうちA型はB型・C型と比べると変異しやすく、ワクチンの効果が低くなる可能性がある。今年には既にインフルエンザの流行を迎えており、原因としてはコロナ禍の影響によりインフルエンザに対する免疫力が低い方が多い一方で、人との接触が増加し感染機会が増えたことを指摘した。RSウイルスは2歳までにほとんどが1度は感染する風邪に似た症状の感染症で、呼吸器症状や小児では約70%が中耳炎を起こす。RSウイルスは何度も感染する感染症で、高齢者が感染すると亡くなるケースや重症化をきっかけに寝たきりになったり食事を取りづらくなることも少なくない。他にもロタウイルス、カンピロバクター、マイコプラズマによる感染症について詳細に解説が行われた。

最後に感染症ではないものの近年増加傾向にあると言われる「気象病」について解説があった。気象病とは、正式な病気として認定されている訳ではないが、雨の降る前は何となく不調や寝込んでしまって学校や仕事に行けないなど症状・重症度がさまざまである。気象病を発症しやすい人は、デスクワーカーや自律神経が乱れやすい女性と言われているが、ここ1～2年で、これまで気象病と無縁だった人も雨の日の不調を感じるようになってきている。大きな原因として考えられているのは、コロナ禍の対応策であるリモートワークである。「自宅のデスクはオフィスと比べて環境が整っていないことが多い」「慣れない業務スタイルで心理的な負荷も大きい」「今まで以上に運動不足になっている」などにより、仕事のオン・オフの切り替えもうまくつかず、自律神経も乱れがちになることより発症する人が増加している。

今回の研修会では、冬に注意する感染症を学んだが、我々医療従事者が日々直面している院内感染対策への一助となれば幸いである。また、季節や時期によって注意する感染症が異なるため、定期的に感染症対策に関する研修会を開催したいと考える。

(文責：富井貴之)

テーマ 免疫学の基礎 ～ 生体防御機構をもう一度学びましょう ～

主催 血清検査研究班

実施日時：2023年10月25日 19時00分～20時00分

会 場：ソニックシティビル 905会議室 教科・点数：基礎教科ー20点

講 師：渡邊 剛（埼玉医科大学総合医療センター）

参加人数：会員16名

出席した研究班班員：渡邊剛 山本晃司 岡倉勇太 飯山恵 森圭介 大坂圭司 深田愛

研修内容の概要・感想など

今回は、「免疫学の基礎 ～生体防御機構をもう一度学びましょう～」というテーマで、渡邊氏より講演が行われた。

免疫血清検査において必要な免疫学的知識について、生体内で生じている免疫応答に沿った内容であった。我々の体の中にウイルスや細菌などの病原体が侵入した際には、自然免疫と獲得免疫と呼ばれる2つの生体防御機構が働き、病原体を排除している。自然免疫は、生まれながら備わっている免疫機構であり比較的速やかに作用し、その中心を担う免疫細胞は食細胞（好中球、単球、マクロファージ、樹状細胞など）である。食細胞の細胞膜にはパターン認識受容体（PRR）が発現しており、食細胞は各病原体の特徴を認識し、貪食・殺菌などの過程を経て病原体を排除する。しかし、これらの機構で全ての病原体を排除できるわけではない。毒性の強い細菌、細胞内寄生菌、ウイルス感染細胞や腫瘍細胞については獲得免疫系の細胞性免疫により処理される。特に白血球の中でも主にリンパ球が作用する。抗原提示細胞がペプチド断片化した抗原をMHCクラスII分子と共に提示し、それをCD4陽性のヘルパーT細胞がT細胞受容体（TCR）により抗原刺激を受ける。細胞性免疫ではCD8陽性のキラーT細胞が活性化し、MHCクラスI分子を認識して、ウイルス感染細胞や腫瘍細胞を特異的に攻撃する。また、液性免疫では、サイトカインに誘導されB細胞が形質細胞へと分化し、抗体を産生する。その抗体は、オプソニン作用や中和作用、補体の活性化に関与し抗原を排除する。

我々は日常検査においては、感染症や自己免疫性疾患などの検査では抗体の有無や抗体価を測定することも多いが、生体内の免疫応答を経て産出される抗体の量や上昇の仕方については個人差も多く、問題点も指摘されている。単に数値だけを見ていると臨床症状と乖離している症例を経験することもあり、抗体価の上昇と臨床症状を併せて結果を解釈することが大切である。また、細胞性免疫や液性免疫の特徴を把握することは、免疫血清検査や細胞機能検査の意義を理解するために重要である。

今回の研修会で得た免疫学的知識は検査データを解釈する際に重要であり、今後の業務に是非、活用していきたい。

(文責：山本晃司)

テーマ アルブミン製剤について基礎からもう一度理解しましょう！

主催 輸血検査研究班

実施日時：2023年10月25日 19時00分～20時00分

会 場：Web開催 教科・点数：専門教科ー各20点

講 演：血液製剤の使用指針

肝硬変診療ガイドライン2020年改訂第3版におけるアルブミン製剤の位置づけ

講 師：富田 安香（CSLベーリング株式会社）

参加人数：会員72名 非会員1名

出席した研究班班員：久保居由紀子 宮澤翔子 岸健太 小原佑太 比嘉絢子 岩崎篤史
廣田渉 川内沙織

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は、血漿分画製剤であるアルブミン製剤の基礎知識から関連するガイドラインについての内容であった。

アルブミンは肝臓で産生され、膠質浸透圧の維持や物質の輸送運搬などの役割を持つタンパク質であり、血中濃度が低下すると様々な臨床症状が現れる。アルブミン製剤には等張製剤と高張製剤があり、等張製剤は膠質浸透圧を維持し循環血漿量を確保すること、高張製剤は体腔内液や組織間液を血管内に移行させ治療抵抗性の重度な浮腫を治療することを目的として使用されている。本邦では過去のアルブミン製剤の使用状況から、関連するガイドラインで適正使用が指示され、使用量は低下傾向である。肝硬変診療ガイドライン2020（改訂第3版）では肝硬変の難治性腹水患者の大量穿刺に対しアルブミン製剤の高用量投与が推奨され、厚生労働省からも高用量投与について「医学的判断による」と疑義解釈通知が発せられ、今後のアルブミン製剤の使用における分岐点になるのではないかと説明があった。

今回の講演を通じてアルブミン製剤の基礎を再確認し現状を把握することができた。DPCおよび輸血管理料の観点からも、今後の使用状況の変化に注視していく必要があると感じた。

（文責：岸健太）

テーマ 尿沈渣を極める③ ～ 異型細胞編 ～

主催 一般検査研究班

実施日時：2023年10月26日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講師：石松 寛美（越谷市立病院）

参加人数：会員309名

出席した研究班班員：藤村和夫 室谷明子 柿沼智史 中川禎己 松本実華 小針奈穂美
織田喜子 渡邊裕樹

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は、「尿沈渣を極める」シリーズ③ 異型細胞編として、石松氏を講師にWebにて開催した。石松氏より異型細胞を見極めるポイントについて尿沈渣検査と尿細胞診のそれぞれの観点から解説があった。

尿沈渣検査で異型細胞を見極めるためには、正常細胞像や組織像を理解し、採取部位や採取方法の確認、性別、年齢、既往歴を把握することが重要である。

尿沈渣を鏡検する際には、まず、弱拡大で全体の背景を観察し、壊死性背景、血性背景、炎症性背景のどれに該当するかを把握する。そして、細胞が集塊で出現していた場合は、結石の存在や良性腫瘍、高度の炎症、放射線治療や化学療法による影響も考慮して観察する。次に、強拡大で疑わしい細胞を観察する場合は、細胞の核所見や細胞質の大きさや形を把握することがポイントであるとのことであった。

異型細胞の核所見は、N/C比の増大、核形不整、クロマチンの増量などを示し、細胞が集塊状で出現している場合は、もとの組織学的構造を反映しているため、出現している細胞集塊がどの組織由来であるか推定でき、良悪性や組織型の鑑別に役立つと説明があった。細胞集塊の出現パターンの説明では、乳頭状配列や柵状配列など聞きなれた用語もあったが、ホブネイル、層形成様配列、一列縦隊など一般検査では聞きなれない用語も多くあった。集塊状で出現した細胞には、細胞極性が存在しており、正常細胞では細胞の向きが均一で規則性がみられる。対して異型細胞では、細胞の配列が不規則で様々な形態を示していることも良性と悪性の鑑別に役立つポイントである。

1つの所見にとらわれず総合的に判断し、細胞像から組織像をイメージし、一般検査や細胞

診検査（病理検査）の枠を飛びこえ形態学的に判別することが重要であるとのことであった。

尿沈渣検査は膀胱がんや尿管がん、悪性リンパ腫など多岐にわたる異型細胞を検出することが可能であるが、異型細胞の鑑別には正常細胞や細胞の出現様式を理解することが重要であると考えられた。尿沈渣検査の熟練した技師においても業務に役立つ新たな知見が得られた内容であった。

（文責：渡邊裕樹）

テーマ 緊急輸血・大量輸血について

主催 輸血検査研究班

実施日時：2023年11月14日 19時00分～20時00分

会 場：ソニックシティビル 601会議室 教科・点数：専門教科ー20点

講 演 1：救命救急の現場と輸血療法

講 師 1：佐久間 信之（さいたま赤十字病院）

講 演 2：当院の大量輸血プロトコールと検査技師の役割

講 師 2：廣田 渉（さいたま赤十字病院）

参加人数：会員50名

出席した研究班班員：久保居由紀子 宮澤翔子 岸健太 小原佑太 比嘉絢子 岩崎篤史
廣田渉 川内沙織

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は、緊急輸血・大量輸血における対応とプロトコールについて理解する目的で開催した。

佐久間氏の講演では高度救命救急センターでの活動や緊急輸血・大量輸血時の輸血療法について説明があった。救急要請を受けてから出動、ドクターカーでの処置、病院搬送、救急外来での治療までの一連の流れを、動画を含めながらわかりやすく解説された。緊急輸血・大量輸血の最終的な治療は病院で行うため、医師、看護師、臨床検査技師など多職種の協力が不可欠であり、病院のスタッフの技術や連携が高いレベルであることが求められる。ルーチン業務では直接関わる機会の少ない救命救急の現場を知ることができ、非常に興味深い内容であった。

廣田氏の講演では大量輸血プロトコール（MTP）運用時の臨床検査技師の業務の様子や、運用実績についての丁寧な解説があった。MTPとは大量出血が予想される患者においてRBC、FFP、PCをあらかじめ定められた比率で早期に投与する方法であり、出血による貧血や凝固障害の改善を目的としている。迅速に各血液製剤を投与することにより、早期改善が期待される。しかしMTP逸脱症例も見受けられるため、その都度修正・周知を行い安定した体制の構築が必要である。また、緊急輸血・大量輸血は夜間帯に発生する確率が高く、日常業務で輸血検査を行っていない不慣れた技師が対応することも多い。対応が遅れることがないように技師の教育体制を整えておくことも必要である。

今回の講演は緊急輸血・大量輸血の対応についての基礎的な部分の内容が中心であった。参加者の方々には安全な輸血医療の実現に向けて今後の業務に役立てて欲しい。

（文責：岩崎篤史）

テーマ **初心者・初級者 末梢血形態セミナー【実習】**

主催 血液検査研究班

実施日時：2023年11月19日 11時00分～16時00分

会 場：埼玉医科大学保健医療学部 教科・点数：専門教科ー20点

講 師：血液検査研究班員

協 賛：シスメックス株式会社

参加人数：会員19名 賛助会員3名

出席した研究班班員：中山智史 堀口大介 澁川絵美 加藤鉄平 吉澤悟

研修内容の概要・感想など

前半は中山氏より血液形態学の基礎的な講演が行われ、後半は実習室にて鏡検実習が行われた。小テストで班分けをし、3～4名のグループに1つモニターを置き、講師が実際に見ている目的の細胞を映し出し、それを参考に鏡検を行った。基本的な細胞から病的な細胞まで形態学的特徴を学ぶことができ、基礎から実践まで学べる研修会であった。以下に参加者の感想を掲載する。

(文責：加藤鉄平)

深谷赤十字病院
川和田 望

私は、今年度から臨床検査技師として働き始め、血液検査に配属となったため基礎から学ぶことができる本研修会に参加させていただきました。前半には血液像の見方・考え方についての講義を受け、標本観察の流れや結果の読み方、各血球の臨床的意義を学びました。後半には各種症例の標本を用いて鏡検を行いました。標本一つ一つに解説があり、不明な点は講師の方々に教えていただきました。その他にも業務上で疑問に感じたことに答えていただけ、とても有意義な研修を受けることができました。今回の研修会で得た知識を業務に活かし、鏡検が行えるようにしていきたいです。



行田中央総合病院
吉川 安津子

この度は、研修会を開催していただきありがとうございます。病院勤務になり、経験未熟な血液像を見ることがあり、細胞の鑑別を学ぶ機会を待っていました。前半の講義は、基礎的な検体の観察や鏡検のポイントを解りやすく説明していただきました。後半は鏡検実習で様々な細胞を探し、自分で迷っていた部分もすぐに講師の方に質問ができ、理解が深まりました。今後は今回の経験を業務に活かし経験を積んでいきたいと思っております。ご指導ありがとうございました。

テーマ **アレルギーについて**

主催 血清検査研究班

実施日時：2023年11月24日 19時00分～20時00分

会場：ソニックシティビル 905会議室 教科・点数：基礎教科－20点

講演：アレルギー疾患とアレルギー検査

講師：大井 雅宏（シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社）

参加人数：会員15名

出席した研究班班員：渡邊剛 山本晃司 飯山恵 森圭介 深田愛

研修内容の概要・感想など

アレルギーとは、生体防御機構を担う免疫反応がある特定の異物に対して過剰に反応することで体に症状が引き起こされることを指し、I型～V型に分類される。今回の研修会はI型アレルギーを中心とした講演内容であった。

I型アレルギーは即時型アレルギーとも呼ばれ、作用因子として主に免疫グロブリンのIgEが関与する。近年、I型アレルギー疾患は増加傾向であり、国民の2人に1人が何らかのアレルギー疾患をもつ。その割合は成人よりも小児で多く、小児期で発症する例が多いという報告もある。I型アレルギー疾患の発症には遺伝的要因と環境要因が関与し、特に環境因子は都市化が進む地域においてその影響が強いといわれている。

食物アレルギーの診断は、問診でアレルゲンを推定し、特異的IgE抗体検査・皮膚プリックテストを実施する。特異的IgE抗体検査の解釈にて重要なことは、抗体陽性が「アレルギーあり」と同一の意味ではなく、抗体陽性でも実際に症状が起これなければアレルギーとは診断せず、問診や抗体検査・皮膚プリックテストの結果を総合的に考え原因食物を特定できる場合は食物アレルギーの診断確定となる。これらの検査でも特定できない場合は、さらに食物経口負荷試験を行うことで診断確定の流れとなる。

他にも、アレルギーマーチやアレルゲンコンポーネント、食物依存性運動誘発アレルギー、口腔アレルギー症候群、稀なアレルギー疾患として水アレルギーやダニアレルギーなどの説明があった。

日本全国で特異的IgE抗体検査を実施している施設は8割が検査センターであるとのことだった。今回の研修会に参加された方で特異的IgE抗体検査を実施している参加者はいなかったことから、ほとんどの施設で外部委託をしていることがわかった。アレルギー疾患はここ数年で患者が急増している身近な疾患である。今回の研修会はアレルギーについて今一度学びなおす良い機会であった。

(文責：深田愛)



令和5年度 埼臨技ニューリーダー育成研修会のお知らせ

本研修会は、今後、地域または職場でのリーダーとなる人材の育成を目的にした研修会です。研修会には当会の神戸理事による講演のほか、グループディスカッションも企画しており、教養だけでなく他施設技師との情報交換の場となると思います。ぜひ多くの方のご参加、お待ちしております。

開催日：令和6年2月10日(土) 14:00~16:30
開催場所：ソニックシティビル 906号室 現地開催
講演 1：臨床検査技師の進むべき未来と次世代のリーダーに求めるもの
講師 1：神戸 考裕(関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所)
講演 2：グループワーキング
講師 2：研修会実務委員
募集人数：40人
募集開始：開催1か月前を予定
(詳細は日臨技の会員専用ページでご確認ください)



令和5年度 第2回検査室管理運営委員会 研修会のお知らせ

検査室管理運営委員会では管理職のみならず、検査室を運営する皆様を対象に研修会を企画しております。

令和5年度第2回検査室管理運営研修会は「臨床検査室の人材育成～Z世代 入社3年目までの若手育成～」と題し、開催いたします。第1回研修会では臨床検査室の管理運営と人材育成を学んでいただきましたが、XYZ世代別、特にZ世代での人材育成に役立てばという想いで企画しました。ぜひ多くの方のご参加、お待ちしております。

開催日：令和6年2月27日(火) 19:00~20:00
Webにて開催(Zoom使用)
講師：渋谷 学(H.U.フロンティア株式会社)
参加費：無料
募集人数：200人
募集開始：開催1か月前を予定
(詳細は日臨技の会員専用ページでご確認ください)



2023年度 青年部研修会のお知らせ

青年部委員会では若手技師が同世代の技師との交流や共感、互いに自己研鑽できるような研修会を毎年企画しています。

今年度の研修会では「当直なんか怖くない!! ~こんなことあったらあなたならどうする?~」として開催いたします。

若手技師が必ず経験する当直業務での困った事例、解決した事例をクイズ形式で紹介し、参加者も一緒に体験しながら考えることのできるプログラムとなっています。

今回は輸血、検体系、生理機能から若手技師の方々に講師をお願いしました。

Webで簡単にクイズにも参加できますので、本研修会を参考に、夜勤業務の準備や考え方に活かしていただければと思います。

皆様のご参加お待ちしております。

開催日：令和6年3月1日(金) 19:00~20:00

Webにて開催 (Zoom使用)

参加費：無料

募集人数：500人

募集開始：開催1か月前を予定

(詳細は日臨技の会員専用ページでご確認ください)



令和5年度 公益社団法人埼玉県臨床検査技師会 第9回 理事会議事録

日時：令和5年12月14日(木) 18時00分より

場所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出席：現地にて出席

(理事) 神山 松岡 猪浦 濱本 長澤

松寄 阿部 松尾 佐瀬 網野

三木 塚原 神嶋 伊藤(隆)

石井 神戸 小林 長谷川

(Zoomにて参加) 長岡 久保田

(監事) 細谷

欠席：(理事) 山口 伊藤(恵)

(監事) 遠藤

本日の理事会の出席者は21名であった。理事の出席者は20名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和5年11月9日~令和5年12月13日)

11月9日(木) 令和5年度第8回理事会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、長澤、松寄、阿部、松尾、網野、佐瀬、三木、塚原、神嶋、伊藤(恵)、伊藤(隆)、長岡、久保田、長谷川、神戸、石井、小林、遠藤、細谷

11月9日(木) 70周年式典実行委員会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、長澤、松寄、阿部、塚原、神嶋、伊藤(恵)、伊藤(隆)

11月10日(金) 全国「検査と健康展」前日準備：塚原、伊藤(恵)

11月11日(土) 全国「検査と健康展」：

猪浦、長澤、松寄、塚原、伊藤(恵)、神嶋、石井

11月11日(土) 日臨技執行理事会：神山

11月11日(土) 群馬県技師会創立70周年式典：

神山、松岡

11月11日(土) HP業者打合せ：濱本

11月12日(日) 栃木県医学検査学会：神山

11月15日(水) HP業者打合せ：濱本、塚原

11月16日(木) 第51回埼玉県医学検査学会実行委員会：三木、佐瀬

- 11月16日(木)～18日(土)日本臨床検査医学会学術集会：神山
- 11月21日(火)青年部委員会会議：塚原、神嶋
- 11月21日(火)HP業者打合せ：濱本、塚原
- 11月22日(水)第52回埼玉県医学検査学会実行委員会：三木、佐瀬
- 11月22日(水)日臨技支部長連絡会議：神山
- 11月22日(水)日臨技理事会事前会議：神山
- 11月23日(木)タスクシフト指定講習会(埼玉県020)：猪浦、山口、濱本、松寄、伊藤(恵)、三木、佐瀬、小林
- 11月23日(木)日臨技役員研修会：神山
- 11月23日(木)日臨技理事会：神山
- 11月25日(土)日臨技関甲信支部幹事会：神山
- 11月25日(土)日臨技関甲信支部学術会議：神山、山口
- 11月25日(土)～26日(日)日臨技首都圏支部・関甲信支部医学検査学会：神山
- 11月27日(月)HP業者打合せ：濱本、塚原
- 11月29日(水)埼玉県衛生検査所立入検査：神山
- 11月30日(木)HP業者打合せ：濱本
- 12月3日(日)第51回埼玉県医学検査学会：神山、松岡、山口、濱本、長澤、松寄、阿部、松尾、網野、佐瀬、三木、塚原、神嶋、伊藤(恵)、伊藤(隆)、長岡、久保田、長谷川、神戸、石井、小林
- 12月4日(月)会計部会：松岡、神戸、石井、小林
- 12月8日(金)埼玉県衛生検査所立入検査：神山
- 12月9日(土)日臨技執行理事会：神山
- 12月11日(月)埼臨技予算委員会：神山、松岡、猪浦、濱本、長澤、松寄、阿部、長岡、神戸、石井、小林
- 12月12日(火)HP業者打合せ：濱本、塚原

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

- 11月9日(木)第2回創立70周年式典実行委員会を開催した。(別紙資料1)
- 11月30日(木)動産総合保険および火災保険の更新手続きを行った。
- 12月6日(水)埼玉県輸血フォームへの後援回答をした。

2 総務部

- 11月23日(木)タスクシフト指定講習会(埼玉県020)を開催した。(別紙資料2)
- 12月15日(金)だより第535号発行予定。
- 12月17日タスクシフト指定講習会(埼玉県

021)は中止。次回は1月21日。

- 2023年度会員名簿、12月中旬に配布予定。
- 埼臨技HPリニューアルのため数社と打ち合わせを行った。(別紙資料3)

3 事業部

- 11月10日(金)全国検査と健康展(埼玉会場)前日準備を行った。(別紙資料4)
- 11月11日(土)全国検査と健康展(埼玉会場)を開催した。(別紙資料5)
- 11月21日(火)青年部委員会会議を行った。(別紙資料6)
- 11月22日(水)青年部委員会会議を行った。(別紙資料7)
- 2月10日(土)埼臨技ニューリーダー育成研修会開催予定。
講演1：臨床検査技師の進むべき未来と次世代のリーダーに求めるもの
講演2：グループワーキング
- 2月27日(火)検査室管理運営委員会研修会開催予定。
講演名：臨床検査室の人材育成～Z世代入社3年目までの若手育成～
- 3月1日(金)青年部委員会研修会開催予定。
講演名：2023年度青年部研修会当直なんか怖くない!!
～こんなことあったらあなたならどうする?～

4 学術部

- 11月30日(木)2・3月生涯教育研修プログラムを埼臨技HPに掲載した。
- 埼臨技会誌Vol.70 No.2を12月15日発行予定。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

- 令和5年度正会員費10名50,000円、入会金10名10,000円、合計60,000円の入金があった。
- 日臨技より、日臨技生涯教育推進研修会助成金238,000円の入金があった。
- 石井印刷に埼臨技だより534号Web版13P63,800円を支払った。
- NECネットエスアイ株式会社にZoom契約更新費145,200円を支払った。
- 12月4日(月)会計部会議を開催した。(別紙資料8)

7 精度管理委員会

- 令和5年度埼玉県医師会臨床検査精度管理調査講評会を令和6年3月28日(木)Webにて開催予定。

8 一都八県会長会議

特になし

9 日臨技関甲信支部

- 1) 11月25日(土)日臨技関甲信支部学術会議、支部幹事会が開催された。

10 日臨技

特になし

11 第51回埼玉県医学検査学会

- 1) 11月16日(木)第14回実行委員会を開催した。
(別紙資料9)

12 第52回埼玉県医学検査学会

- 1) 11月22日(水)第2回実行委員会を開催した。
(別紙資料10)

III. 承認事項**1 事務局**

- 1) 会員動向(令和5年度分)

令和5年12月1日現在
会員数 3,620名[令和4年度会員数3,458名]
(新入会員 288名)
賛助会員 71社[令和4年度 71社]
承認された。

- 2) 令和5年度臨時総会役員案について

(別紙資料11)

上記の件について、長澤英一郎事務局次長より発言があり、審議の結果、承認された。

- 3) 会員一斉メールの取り扱いについて

(別紙資料12)

上記の件について、濱本隆明事務局長より発言があり、審議の結果、承認された。

2 総務部

特になし

3 事業部

- 1) 埼臨技だより記事掲載について

ワークライフバランス推進、検査室管理運営、青年部3委員会研修会の開催案内をだより掲載にさせていただきたい。

上記の件について、塚原晃事業部長より発言があり、審議の結果、承認された。

4 学術部

- 1) 生理検査研究班班員の応募について

(別紙資料13)

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、応募のあった会員1名について来年度の生理検査研究班員への委嘱が承認された。

- 2) 事業計画変更について (別紙資料14)

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、遺伝子染色体

検査研究班研修会と公衆衛生研究班研修会の事業変更について承認された。

- 7 遺伝子染色体検査研究班班員の応募について

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、応募のあった会員1名について来年度の遺伝子染色体検査研究班員への委嘱が承認された。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

7 精度管理委員会

特になし

8 第51回埼玉県医学検査学会

特になし

9 第52回埼玉県医学検査学会

- 1) 学会上程事項について (別紙資料10・15)

- 1) 学会テーマ: Challenge!

サブテーマ: ~多様化するニーズへの実践と進化~ としたい

- 2) 学会カラーを「若草色」としたい

- 3) 学会予算案について承認いただきたい

上記、3件について、三木隆治学会担当理事より発言があり、審議の結果、承認された。

IV. 議題**1 事務局**

特になし

2 総務部

特になし

3 事業部

特になし

4 学術部

特になし

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。



お知らせ

令和6年度技師会会費納入のお願い

令和6年度技師会会費納入の時期となりました。会費は前納制となっており、令和6年2月27日(火)に登録済み口座より振替となりますので、ご準備をお願いいたします。

また、不明な点につきましては、埼臨技事務所までご連絡をお願いいたします。

なお、本年度で退会を希望される方は、3月31日までに(一社)日本臨床衛生検査技師会HPより手続きをお願いいたします。(2月1日以降に退会手続きを行った場合は、口座より引き落とされますので、返金手続きが必要となります。)

ご理解、ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

会費の内訳については下記のとおりとなります。

会費内訳

一般社団法人	日本臨床衛生検査技師会	会費	10,000円
		入会金	2,000円
公益社団法人	埼玉県臨床検査技師会	会費	5,000円
		入会金	1,000円
継続会員合計			15,000円
新入会員合計			18,000円

あ と が き

謹んで新年の喜びを申し上げます。本年も埼玉県臨床検査技師会執行部一同をどうぞよろしく願い申し上げます。

さて、2024年の干支は「甲辰(きのえ・たつ)」になります。「甲」は十干の最初、「命の始まり、ものごとの始まり」を意味し、「辰」は十二支の中では唯一架空の生き物であり、竜巻や雷など自然現象を起こす大自然の躍動を意味し、「龍があらわれるとめでたいことが起こる」とされています。この二つを組み合わせると、「おめでたいことが始まる一年」となりそうですが、前回の甲辰の1964年は東京オリンピックの開催があり、戦後の不況から大きく復興していく年になりました。2024年はいったいどんな年になるのでしょうか?国内の経済状況が良くなるのと、世界各地で起こる紛争・戦争が落ち着くことを祈るばかりです。

最後に個人的な話になりますが、趣味の釣りで「ドラゴン(辰)」と称される超大型の太刀魚を狙い、今年一年を占ってみたいと思います。

(濱本 記)

